



足立区

第53回

足立区政に関する世論調査

2024(令和6)年8月実施

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／
健康／スポーツ・読書／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動／
「孤立ゼロプロジェクト」など／「協働・協創」・「SDGs」／区での取り組み

足立区 政策経営部 区政情報課

令和7年3月発行

はじめに

令和6年8月に区民の皆様3,000人を対象に行った世論調査の結果がまとまりました。回収率は郵送、インターネット回答合わせて47.4%と、昭和47年の調査開始以来初めて50%を切ることとなりました。とは申せ、質問数が全105問と多く、回答に時間を要する調査であり、お忙しいなか労を厭わずご協力をいただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

世論調査の目的は、「区民の皆様のご要望を受け止めること」「区政に対するご意見を伺うこと」「施策の浸透度を確認すること」「数値の経年変化を検討すること」など様々であり、調査結果は、施策の方向性の決定や予算編成に欠かすことの出来ない重要なデータです。

物価高騰対策、災害対策等、直面する課題は山積しておりますが、今後も世論調査をはじめとする区民の皆様のお声に耳を傾けつつ、誇りや愛着の持てるまちづくりに力をつくしてまいります。

令和7年3月

足立区長 近藤やよい

目 次

| | |
|----------------------------------|-----------|
| 第 1 章 調査の概要 | 1 |
| 1 調査の目的 | 3 |
| 2 調査の内容 | 3 |
| 3 調査の設計 | 3 |
| 4 調査地域 | 4 |
| 5 調査方法 | 5 |
| 6 回収結果 | 5 |
| 7 報告書の見方 | 7 |
| 8 回答者の構成 | 10 |
| 第 2 章 調査結果の要約 | 15 |
| 1 定住性 | 17 |
| 2 大震災などの災害への備え | 18 |
| 3 洪水対策 | 19 |
| 4 区の情報発信のあり方 | 20 |
| 5 健康 | 21 |
| 6 スポーツ・読書 | 22 |
| 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動 | 23 |
| 8 環境・地域活動 | 24 |
| 9 「孤立ゼロプロジェクト」など | 25 |
| 10 「協働・協創」・「SDGs」 | 27 |
| 11 区の取り組み | 28 |
| 第 3 章 調査結果の分析 | 37 |
| 1 定住性 | 39 |
| （1）居住地域の評価 | 41 |
| （2）地域の暮らしやすさ | 63 |
| （3）特に暮らしにくいと感じること | 69 |
| （4）定住意向 | 73 |
| 2 大震災などの災害への備え | 81 |
| （1）備蓄や防災用具などの用意 | 83 |
| （2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容 | 87 |
| （3）備蓄量 | 92 |
| （4）地域の 3 種の避難場所とその意味の認知 | 101 |
| （5）大規模災害時の避難生活場所 | 110 |
| 3 洪水対策 | 113 |
| （1）「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知 | 115 |
| （2）河川はん濫時の避難場所 | 119 |

| | |
|---|-----|
| (3) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由 | 123 |
| 4 区の情報発信のあり方 | 125 |
| (1) 区の情報の入手手段 | 127 |
| (2) 必要なときに必要とする区の情報の入手状況 | 132 |
| (3) 区の情報が得られていない理由 | 134 |
| 5 健康 | 137 |
| (1) 区のキャッチフレーズの認知状況 | 139 |
| (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識 | 141 |
| (3) 野菜から食べ始めることの実践状況 | 144 |
| (4) 1日の野菜350g以上の摂取 | 146 |
| (5) 自身の健康状態について | 148 |
| (6) 体調や習慣 | 150 |
| (7) 安心して受診できる医療機関の有無 | 153 |
| (8) 健康維持のために実行している、心がけているもの | 155 |
| (9) がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類 | 157 |
| (10) かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容 | 159 |
| (11) 感染症予防としての手洗いの実践状況 | 161 |
| (12) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況 | 163 |
| 6 スポーツ・読書 | 165 |
| (1) 日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況 | 167 |
| (2) 継続的に実施している運動・スポーツ | 169 |
| (3) 運動・スポーツを最も多く行っている場所 | 173 |
| (4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ | 175 |
| (5) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動 | 178 |
| (6) 運動・スポーツを支える活動をしなかった理由 | 179 |
| (7) 読書に関わる行動状況 | 180 |
| (8) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由 | 183 |
| 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動 | 187 |
| (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況 | 189 |
| (2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み | 192 |
| (3) 居住地域の治安状況 | 197 |
| (4) 居住地域の治安が良いと感じる点 | 201 |
| (5) 居住地域の治安が悪いと感じる点 | 204 |
| (6) 駐輪時の鍵かけ状況 | 209 |
| 8 環境・地域活動 | 215 |
| (1) 環境のために心がけていること | 217 |
| (2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無 | 223 |
| (3) この1年間に参加した活動と、引き続き、または今後参加したい活動 | 225 |

| | | |
|----|--|-----|
| 9 | 「孤立ゼロプロジェクト」など | 231 |
| | (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況 | 233 |
| | (2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知 | 236 |
| | (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向 | 240 |
| | (4) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況 | 243 |
| | (5) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況 | 246 |
| | (6) 仕事と仕事以外の生活の調和 | 248 |
| | (7) 「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況 | 251 |
| 10 | 「協働・協創」・「SDGs」 | 255 |
| | (1) 「協創」の認知 | 257 |
| | (2) 協働・協創の実践 | 259 |
| | (3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価 | 261 |
| | (4) SDGsの認知状況 | 263 |
| | (5) SDGsの関心状況 | 265 |
| 11 | 区の取り組み | 267 |
| | (1) 区に対する気持ち | 269 |
| | (2) 区に対する気持ち（愛着、誇り、人に勧める）の具体的な内容（自由回答） | 299 |
| | (3) 区を良いまちにするための行動 | 308 |
| | (4) 区の取り組みで満足している分野 | 312 |
| | (5) 区の取り組みで不満の分野 | 316 |
| | (6) 区の取り組み（分野）に対する評価（【満足割合】－【不満割合】） | 319 |
| | (7) 区政に対する満足度 | 335 |
| | (8) 今後特に尽力してほしい取り組み分野 | 338 |
| | (9) 区政への区民意見の反映度 | 341 |
| | (10) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答） | 345 |
| | (11) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度 | 352 |

| | | |
|------------|----------------|------------|
| 第4章 | 使用した調査票 | 355 |
|------------|----------------|------------|

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的として実施する。

2 調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ・読書
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 「協働・協創」・「SDGs」
- (11) 区の取り組み

3 調査の設計

- | | |
|--------------|----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000サンプル（人） |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 令和6年8月15日（木）～9月6日（金） |
| (6) 調査機関 | (株) サーベイリサーチセンター |

4 調査地域

図1 地域区分図

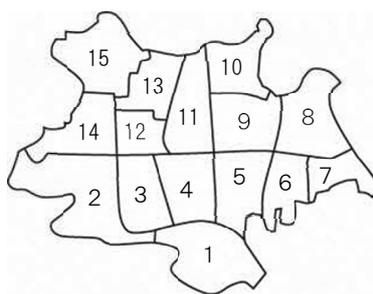


表1 調査地域一町丁目対応表

| 地域名 | 地区町丁目名 |
|-------|---|
| 第1地域 | 千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町 |
| 第2地域 | 小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目 |
| 第3地域 | 西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町 |
| 第4地域 | 西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目 |
| 第5地域 | 足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目 |
| 第6地域 | 加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目 |
| 第7地域 | 東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目 |
| 第8地域 | 大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目 |
| 第9地域 | 西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目 |
| 第10地域 | 花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目 |
| 第11地域 | 西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目 |
| 第12地域 | 西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目 |
| 第13地域 | 西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目 |
| 第14地域 | 谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目 |
| 第15地域 | 舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園 |

5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配付、郵送またはインターネットによる回答
(依頼状、お礼状ともに1回)
- (2) 調査票 第4章の調査票を使用

6 回収結果

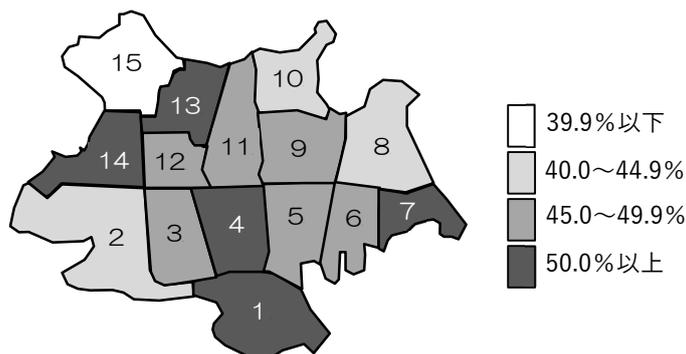
- (1) 標本数 3,000人
- (2) 有効回収数 1,421票 有効回収率 47.4%
- 回答方法別
- (郵送 965票 構成比 67.9%)
- (オンライン 456票 構成比 32.1%)
- (3) 回収不能数 1,579票 回収不能率 52.6%
- (4) 地域別回収結果

表2 地域別回収結果

| 地域名 | 18歳以上人口 | 構成比 | 標本数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|-------|----------|--------|--------|--------|-------|
| 区全体 | 606,596人 | 100.0% | 3,000人 | 1,421票 | 47.4% |
| 第1地域 | 68,553 | 11.3 | 338 | 170 | 50.3 |
| 第2地域 | 42,607 | 7.0 | 211 | 86 | 40.8 |
| 第3地域 | 36,098 | 6.0 | 179 | 83 | 46.4 |
| 第4地域 | 52,178 | 8.6 | 258 | 133 | 51.6 |
| 第5地域 | 54,561 | 9.0 | 270 | 130 | 48.1 |
| 第6地域 | 40,888 | 6.7 | 203 | 99 | 48.8 |
| 第7地域 | 29,353 | 4.8 | 145 | 76 | 52.4 |
| 第8地域 | 48,355 | 8.0 | 240 | 98 | 40.8 |
| 第9地域 | 41,770 | 6.9 | 206 | 97 | 47.1 |
| 第10地域 | 27,838 | 4.6 | 138 | 62 | 44.9 |
| 第11地域 | 49,186 | 8.1 | 244 | 116 | 47.5 |
| 第12地域 | 25,165 | 4.1 | 124 | 61 | 49.2 |
| 第13地域 | 30,116 | 5.0 | 149 | 77 | 51.7 |
| 第14地域 | 32,084 | 5.3 | 159 | 80 | 50.3 |
| 第15地域 | 27,844 | 4.6 | 136 | 53 | 39.0 |

(18歳以上人口は令和6年7月1日現在)

図2 地域別有効回収率分布図



第1章 調査の概要

(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

| 年代 | 標本数 (男性) | 有効回収数 | 有効回収率 | 標本数 (女性) | 有効回収数 | 有効回収率 |
|--------|-------------|-------|-------|-------------|-------|-------|
| 計 | 1,460人 | 611票 | 41.8% | 1,540人 | 798票 | 51.8% |
| 18～29歳 | 247 | 52 | 21.1 | 245 | 81 | 33.1 |
| 30代 | 231 | 66 | 28.6 | 193 | 80 | 41.5 |
| 40代 | 234 | 89 | 38.0 | 253 | 118 | 46.6 |
| 50代 | 287 | 119 | 41.5 | 251 | 151 | 60.2 |
| 60代 | 168 | 86 | 51.2 | 177 | 125 | 70.6 |
| 70歳以上 | 293 | 199 | 67.9 | 421 | 243 | 57.7 |

(注) 表中に触れていない有効回収数として、性別を「どちらでもない」と回答した方が2人、「答えたくない」と回答した方が7人、性別・年代の両方を回答しなかった方が3人いる。

7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 問1の〈居住地域の評価〉における【**そう思う(計)**】のように、「**そう思う**」と「**どちらかといえばそう思う**」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用しているため、グラフ又は数値表に表記された単純集計値(一選択肢の値)の合計とは異なる場合がある。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (6) 性・年代別などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、原則的に参考値としての掲載としている。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満18歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「ずっと住み続けたい」と答えた人は、1,421人のうち38.5%であった。

回答者数が1,421人、回答の比率が40%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.60%であるから、「ずっと住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満18歳以上の男女全体(母集団)の35.9%から41.1%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

| |
|--|
| <p>b = 標本誤差 N = 母集団数 (足立区の18歳以上人口) n = 比率算出の基数 (回答者数) P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)</p> |
|--|

〈 早見表 〉

| 回答の比率 (P) 基数(n) | 10%または 90%前後 | 20%または 80%前後 | 30%または 70%前後 | 40%または 60%前後 | 50%前後 |
|-----------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|
| 1,421 | ±1.59% | ±2.12% | ±2.43% | ±2.60% | ±2.65% |
| 1,300 | ±1.66% | ±2.22% | ±2.54% | ±2.72% | ±2.77% |
| 1,200 | ±1.73% | ±2.31% | ±2.65% | ±2.83% | ±2.89% |
| 1,000 | ±1.90% | ±2.53% | ±2.90% | ±3.10% | ±3.16% |
| 800 | ±2.12% | ±2.83% | ±3.24% | ±3.46% | ±3.54% |
| 600 | ±2.45% | ±3.27% | ±3.74% | ±4.00% | ±4.08% |
| 400 | ±3.00% | ±4.00% | ±4.58% | ±4.90% | ±5.00% |
| 200 | ±4.24% | ±5.66% | ±6.48% | ±6.93% | ±7.07% |
| 100 | ±6.00% | ±8.00% | ±9.17% | ±9.80% | ±10.00% |

〈 早見表 - 性・年代別 〉

| 回答の比率 (P) 基数(n) | 10%または 90%前後 | 20%または 80%前後 | 30%または 70%前後 | 40%または 60%前後 | 50%前後 | |
|-----------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|---------|
| 全体 | 1,421 | ±1.59% | ±2.12% | ±2.43% | ±2.60% | ±2.65% |
| 男性(計) | 611 | ±2.43% | ±3.24% | ±3.71% | ±3.96% | ±4.05% |
| 18～29歳 | 52 | ±8.32% | ±11.09% | ±12.71% | ±13.59% | ±13.87% |
| 30代 | 66 | ±7.39% | ±9.85% | ±11.28% | ±12.06% | ±12.31% |
| 40代 | 89 | ±6.36% | ±8.48% | ±9.72% | ±10.39% | ±10.60% |
| 50代 | 119 | ±5.50% | ±7.33% | ±8.40% | ±8.98% | ±9.17% |
| 60代 | 86 | ±6.47% | ±8.63% | ±9.88% | ±10.57% | ±10.78% |
| 70歳以上 | 199 | ±4.25% | ±5.67% | ±6.50% | ±6.95% | ±7.09% |
| 女性(計) | 798 | ±2.12% | ±2.83% | ±3.24% | ±3.47% | ±3.54% |
| 18～29歳 | 81 | ±6.67% | ±8.89% | ±10.18% | ±10.89% | ±11.11% |
| 30代 | 80 | ±6.71% | ±8.94% | ±10.25% | ±10.95% | ±11.18% |
| 40代 | 118 | ±5.52% | ±7.36% | ±8.44% | ±9.02% | ±9.21% |
| 50代 | 151 | ±4.88% | ±6.51% | ±7.46% | ±7.97% | ±8.14% |
| 60代 | 125 | ±5.37% | ±7.16% | ±8.20% | ±8.76% | ±8.94% |
| 70歳以上 | 243 | ±3.85% | ±5.13% | ±5.88% | ±6.29% | ±6.42% |

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類した項目の定義

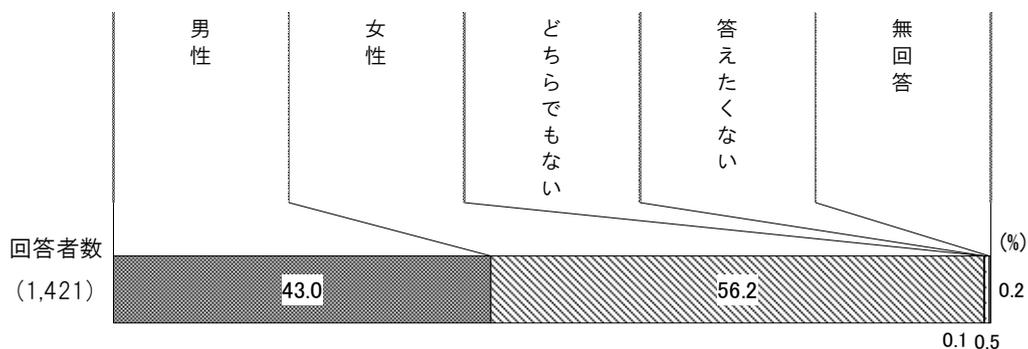
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域別……………（15カテゴリ）
- ② 性別……………（2カテゴリ） ※性別の「どちらでもない」が2サンプル、「答えたくない」が7サンプルのみだったので表側からは割愛した
- ③ 性・年代別……………（12カテゴリ）
- ④ ライフステージ別……………（7カテゴリ）
 - ・ 独身期 40歳未満の独身者
 - ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - （家族成長小学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - （家族成長中学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
 - （一人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - （夫婦二人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - （その他の高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - （壮年独身者） 本人が40歳～64歳で独身
 - （壮年夫婦のみ者） 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ エリアデザイン別①……………（7カテゴリ）
 - ⑤-1 エリアデザイン地域内外別②（2カテゴリ）
- ⑥ 住居形態別……………（8カテゴリ）
- ⑦ 職業別……………（8カテゴリ）
- ⑧ 就労（就学）場所別……………（6カテゴリ）
- ⑨ 居住年数別……………（6カテゴリ）

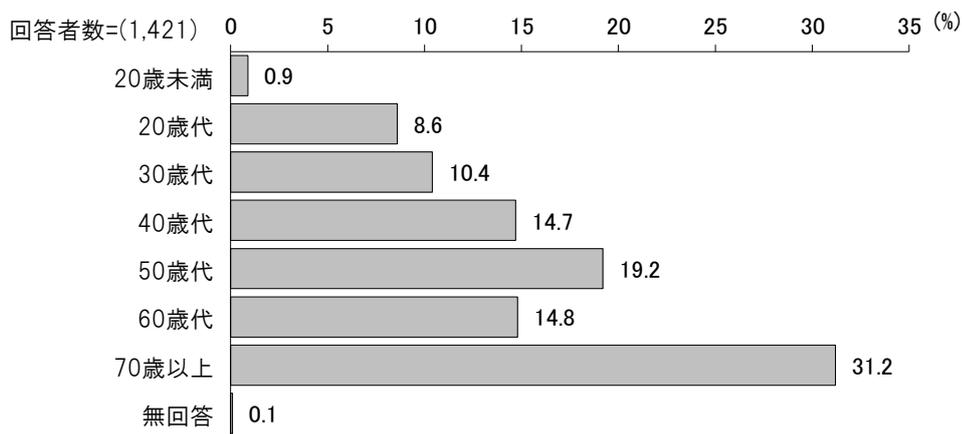
※ 本文中、表側に使用した項目の回答者数が30名未満の場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載にとどめ、分析コメントでは言及していないことがある。

8 回答者の構成

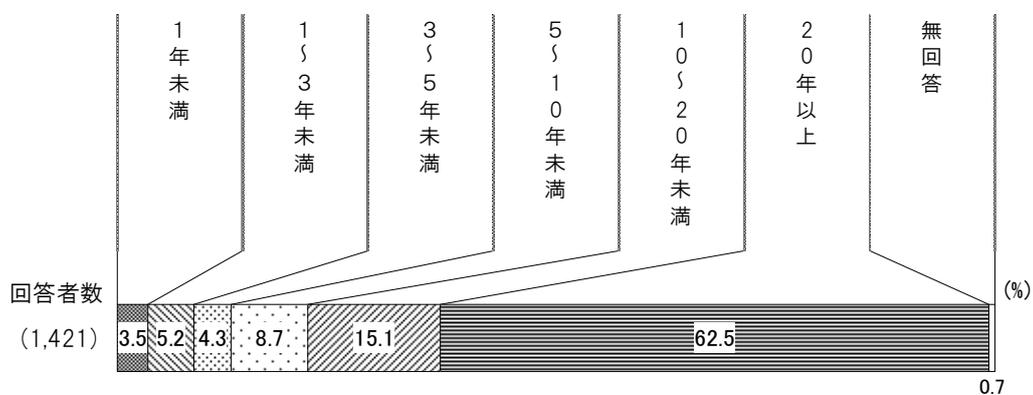
F1 性別



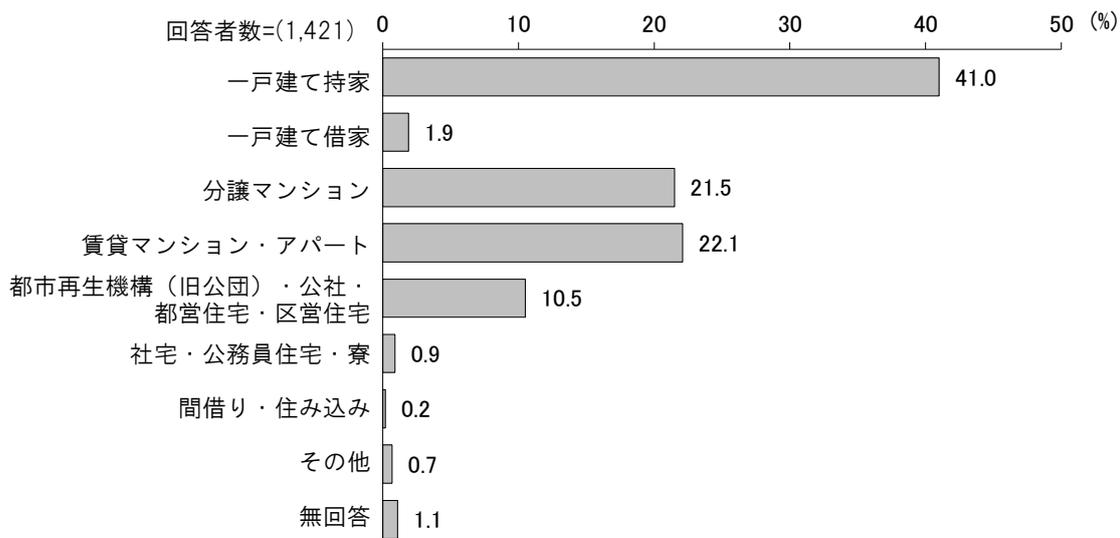
F2 年齢



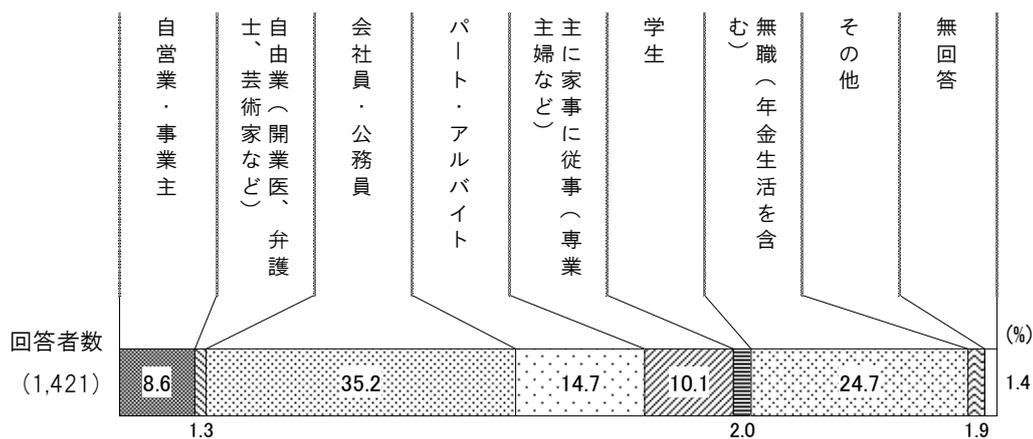
F3 居住年数



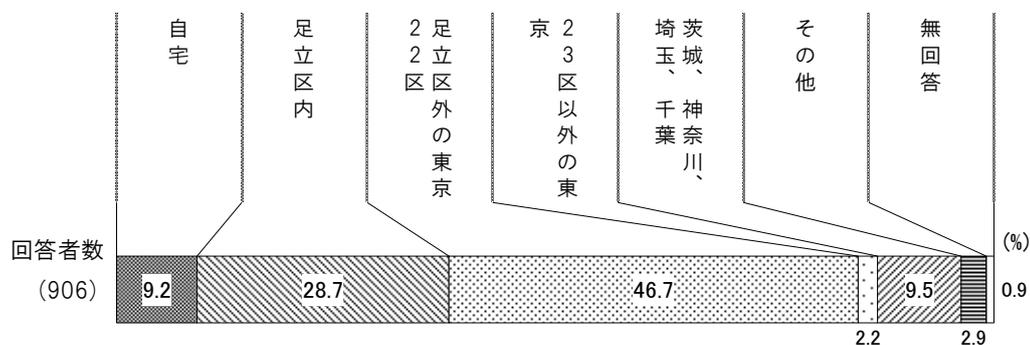
F4 住居形態



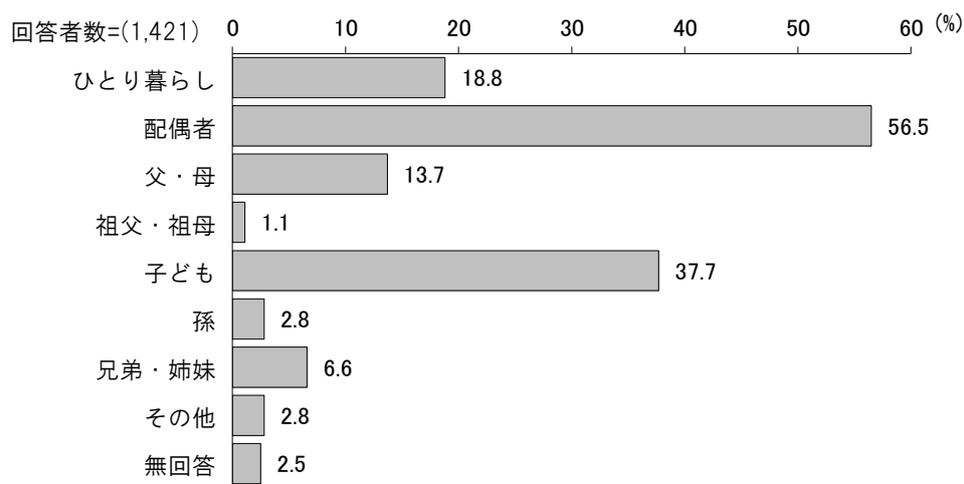
F5 職業



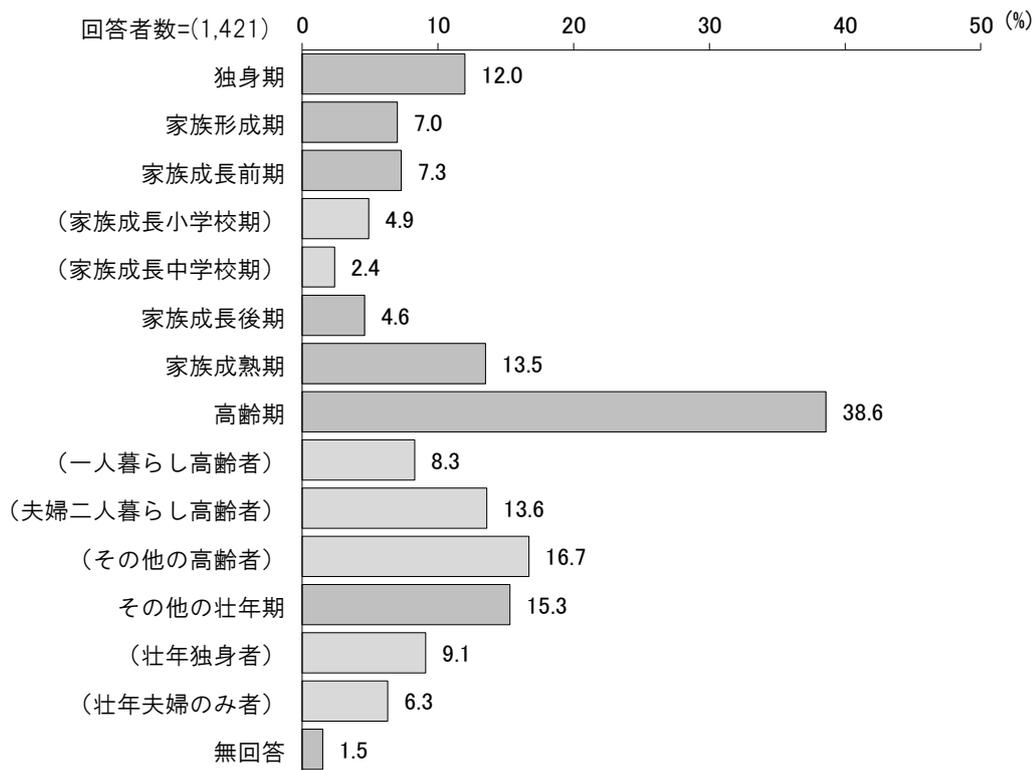
F5-1 就労、就学場所【就労者、就学者ベース】



F6 同居家族（複数回答）



F7 ライフステージ



F8 エリアデザイン

